

〒183-0034 東京都府中市住吉町 4-47-16

Tel/Fax 042-354-3044

E-Mail fuchu_nakagawara_church@hotmail.com

HP <https://www.fuchu-nakagawara-church.com>

牧会書簡（付 ヴァルド派、ボヘミアの兄弟とザンクト・ガレンの各信仰問答の対観表） / 日々の祈り

2020年5月24日（第九報）

牧会書簡等第九報をお届けします。例によって、礼拝説教は、ペンテコステまで連続して「復活と聖霊降臨」を主題にしています。既にその日までのすべての説教原稿を、第五報でまとめてお届けしています。使徒言行録2章を通奏低音にみことばに聴いてまいりましたが、先週からは、ペトロが聖霊降臨日の説教で引用した詩編16にもとづく讃美礼拝をしています。肉と霊・みことばによって主に結ばれた私たちは、兄弟姉妹と心からの声を合わせて歌います。家庭礼拝の日々にあっても、心を高く、私たちを主にあってひとつとする聖霊の導きを求めて祈り歌いましょう（どうぞ引き続き、ジュネーヴ詩篇歌や、讃美歌〔54年版〕第14番の旋律によせた私の翻案で実際に歌ってみてください！）。

目次

目次

牧会書簡（9）敬愛する皆様へ～古くて新しいキリスト告白 _____	1
<u>小会だより（簡略版）</u>	<u>5</u>
日々の祈り「聖霊の導きを求めて」_____	7

牧会書簡（9）

敬愛する皆さまへ

～古くて新しいキリスト告白に生きるべきこと（付：ザンクト・ガレン信仰問答第1～5問比較表）

主の御名を讃美いたします。

みなさま、いくつかの地域では、自治体による外出自粛要請が解除されました。なお時期尚早の感もぬぐえないため不安だとお感じの方もあるでしょうし、あるいは東京・神奈川地区等においてなお自粛を余儀なくされる現状に、じれったいと申しましょうか、言い得ない思いをしておられる方もあるかと思えます。私もまた、感染の不安と社会的・経済的な不安とのせめぎ合いのなかで、公的機関から届く冷たい声や、おびたしく飛び交う情報に耳を傾けておられる皆様と、思いを共有しています。この間、牧師また信仰者として、あるいは一人間として覚える葛藤には、いくつもの側面があることを思います。自らの欠けを表明することでもありますが、問題意識の共有のために、それぞれをまとめ、そのうえで、どのような視座にあっても変わらない、主への信仰告白に立ち帰る作業を、重ねて参りたいと願います。

① 牧者のつとめ（牧会）に関わる葛藤

まず、これは牧師である私の個人的な思いが強いのですが、教会での礼拝準備、神学校や大学での授業準備に追われて、お一人おひとりにお電話をおかけすることもなかなかできず、牧会上の欠けが相変わらず大きなことを反省する毎日です。みなさんは、この間、「兄弟姉妹」や「隣人」と、どれほど日常的なやり取りをされていますか？ その範囲は、外出自粛前後で、変わりましたか？ 祈りは誰のために、どのような交わりの中で、深まっているでしょうか。わたしは、毎週皆様にお手紙を書くようになって、少しずつ、日曜日以外にもお交わりの機会が広げられ、祈りの課題が具体化されているような思いを持っていますが、そう思えば思うほどに、もっと祈るべきだし、もっと霊的な交わりの密度を濃厚にできるはずだという葛藤を覚えます。敬愛する方の入院先にもうかがえないどころか、何もできずに「家（ハウス）」に閉じこもらざるをえない今ですが、電話でもネット通信でも、あらゆるツールを使いつつ、「家（ホーム）」に多くの

牧会書簡（9）

共なる人々を招き、共に生きていることを確認しながら神の国の前味を味わう日々を重ねたいものです。そして何より、祈り歌う声を強く、豊かにしたい。そしてそれが、ふたたび自粛の期間を終えて、健康なものを中心に、建物としての「神の家（ハウス）なる教会」に集まることが叶う日にも、それがかなわない皆さんと一緒に、御国の共同体としての「神の家（ホーム）に共に連なっているとの確信に満ちた讚美告白に繋がることを信じます。

②預言者のつとめ、王のつとめに関わる葛藤

次に、とくに最近私が気がかりなのは、私個人も教会も思えば「見張り」のつとめまで「自粛」しているのではないかと感じざるをえないことです。この一週間、コロナ禍に乗じるように推し進められるかに思われた「検察庁法改正案」や「種苗法改正案」に、個人的な、かすかな反対の声をあげたりはしてきました。本国会での成立はいずれも断念されたので、いくらかは安心とも言えますが、それにしても、その他のことも含め、この国には、神のことはもちろん、他者を顧みない独りよがりの不義がさまざまなレベルで支配権を主張しているように思われてなりません。

今後、「ポストコロナ」の解放感が、たとえばオリンピックのお祭りと同様に世の中を覆う時期が来たときに、今与えられている「疎外・隔離された者の視座」をどのように保ってられるかが大事になりそうです。政治神学的には、「主権」とは何なのかについて、教会はもっと言葉を尽くして語るべきでしょう。「神学的」などと言うと、あまりにお堅く壁を作ってしまうそうですね。言い換えるなら、私たちは、日曜も平日も同じ場所において、日曜だけのクリスチャンではもういられない、いつでも神を王として、主としてあおぐ御国の民として生きていたい、ということです。教会と社会／国家、主の日の聖性と日常の俗性の関係について、一人ひとりが信仰者として、あるいは「理性を与えられた、死すべき一被造物」（ザンクト・ガレン信仰問答）として問い直し、聖俗の「区別はすれど分離できない」人間的な場であって、他の何ものでもなく、父・子・霊なる神ただおひとりを「わが主」と讃え、キリストのみを教会の頭と仰ぐ生き方を貫きたいと思います。

牧会書簡（9）

③ 王たるしもべのつとめに関わる葛藤

その際、まことの王たる神の御子主キリストが、だれよりも低くされ、僕のようにへりくだり、まことの人間、本当の友、隣人、きょうだいとして、すべての他者に仕える方であられたことを、もう一度思い出したいと思います。たとえば、公的な活動を制限されている中で、こども食堂に関わる団体との関係が深まり、フードパントリーの会場として教会を用いていただけるようになったことを、私たちの教会が委ねられた奉仕の具体例としてあげてもよろしいでしょうか。教会とは違う活動動機も入り混じったグループ横断的な社会活動に関わることは、普段教会の中だけでは触れていなかった、新たな葛藤を引き受けることにも繋がるでしょう。たとえば、教会が置かれた地域のひとり親世代の困窮の度が増していることが、前回のフードパントリー開会時に伝えられました。教会には子どもたちが少なく、近所づきあいもままなりませんから、なかなか地域の多様な状況が見えにくい昨今ですが、私たちの生活圏にあって、表面的には隠された、裸の本質のレベルでの悲惨さに目をむけることが、いよいよ必要だと思わされます。教会の戸を開いても、中においでと手招きするばかりの「伝道礼拝・集会」では見えなかった景観が、開いた扉から外にむかって奉仕するために出かけていく歩みの中で、少しずつ明らかになるのではないかと思います。だとすれば、私たちの教会は、なおあまりにも内向きだ、という葛藤を覚えざるをえません。心の貧しさと結び合った形で社会的な貧困の問題が剥き出しになっている現状にあって、私たちの奉仕の足場が自分たちの「家（ハウス）の中」にしかない、というのであれば、それは問題です。視座としても建物としても、私たちの家を、神の愛しておられるあらゆる他者にとっての「ホーム」として、どのように開くことができるか、と問われていると感じます。

⑤ 祭司的つとめに関わる葛藤

最後にもう一つだけ、私の葛藤を共有させてください。家庭・教会・地域社会・国家のそれぞれの視座をむすびつける、「共同体の一致」の具体性と関係がある葛藤です。つまり礼拝、とくに聖礼典に関して。聖餐卓から引き離された私たちが今新たな渴望を与えられ、その意味

牧会書簡（9）

を問い直す契機を与られていることは、これまでも皆さんと確認してきました。しかし、オンラインの礼拝の是非、とくに聖餐の動画配信をするかどうか、まだ私たちの教会では十分に議論ができていないわけではなく、これは悩ましい問題です。たとえばアメリカのある改革派教会では、総会書記名で、臨時的な現況では、年に数度の聖餐を共にしなさい、との憲法規則に即した措置として、オンラインによる聖餐であっても、工夫して（各家でパンとぶどう液を用意するなどして）行うことは、神学的に可能である、との見解が表明されました。一方で、日本のある教団の声明に見られるように、そのような聖餐を否定する意見ももちろんあります。日本キリスト教会の牧師たちも含め、みんな悩みながらですが、聖餐の実践に関しては、これまで以上に、それぞれの強調点が多様であることが見えてきました。今後、より良い対話と学びのプラットフォームが生まれ、この点で、神への信頼と隣人への愛に根差した豊かな試行錯誤がなされるべきだろうと思います。

さて、様々な葛藤がある中で、教会としての責任ある自律的な判断はどこに置かれるべきか、またその判断はいつなされるべきかについて、祈り問う毎日を過ごしていることを、共有させていただきました。

ペンテコステ以降の礼拝やその他の集会については、5月24日の礼拝後にオンラインで行う予定の第3回臨時小会で、話し合う予定です。どうか、以上のことを置覚えくださり、日々の祈りの中で、主の御心を問いつつ、ご加祷くださいますと幸いです。

前回と比べて、多様で具体的な問題を指摘しましたから、すこし混乱してしまった、とおっしゃる方もあるかもしれません。もちろん、いずれの問題に向き合うときにも、わたしたちは、ただ主イエス・キリストに委ねる信・望・愛によって生きていくという「土台」が大切ですから、混乱した方は、先週ご紹介した信仰問答に、少年少女のような心でたちかえってくださればと思います。

牧会書簡（9）

その際、先週ご紹介した『ザンクト・ガレン信仰問答～聖書に基づく青少年のためのキリスト教信仰の手引き』（1527年）には、「種本」があることがわかりましたので、その比較を試みた次頁の信仰問答対観表がお訳に立つかもしれません。つまり、このカテキズムに影響を与えたヴァルド派（中世の異端として迫害されたが、後に改革派に合流した）の青少年向け信仰問答（1498年）と、そのヴァルド派の問答に基づき作られたボヘミア兄弟団（宗教改革以前の改革者とよばれるヤン・フスの影響下で生まれた）の問答（1502年〔ドイツ語版1522年〕）が「種」であることがわかったのです。前回、ツヴィングリ的な洗礼論や改革派的な聖餐論がこの後に続くので、チューリヒ由来だと勘違いしてそう書いてしまいましたが、『ザンクト・ガレン信仰問答』の編著者は、厳密には判明していないとのことでした（すみません、前回書いたことを訂正します）。ちょっと小さい文字で恐縮ですが、比べてみてください。すると、少なくとも最初の五問は、ほとんど宗教改革以前の先例の「丸写し」だとわかります。しかし、コピーだからこそ、違いがあれば目立ちます。そこに後代の譲れない強調点が明らかになるからです。改革派教会の基をつくった16世紀の先達の譲れない強調点は、では、どこにあるでしょうか。とくに第三問をご覧ください。信・愛・望の三徳の議論の文脈を引き継ぎながら、ザンクト・ガレン信仰問答の焦点は、明らかに「キリストのみ」に絞られています。わたしたちの信、愛そして希望の土台は、キリストにのみある！ ただこれだけだ、といわんばかりです。ここから私たちも学びましょう。大切なことは多くはない、いや一つです。すなわち複雑な問題で悩むときにも、私たちはただ主を仰ぎ、そのみことばに耳をかたむけ、御手にすべてを委ねるのです。

2020年5月21日 府中中河原教会 牧師 大石周平

小会だより：24日の第3回小会で、礼拝休止措置の延長の可能性について協議・決議をします。その他の主な議題として、覚えていただきたいのは、地域でのフードパントリーを続けている「子どもの居場所作り@府中」の代表の方から受けました6月20日（土）の教会建物使用願いの件です。御心にかなった決議がなされるようお祈りください。

【ゲラルド派信仰問答 1498】

1 . . .

「きみは 何なのか」と問われたときは、

答えなさい。

分別があっても、死すべき 神の被造物です。

2 神は何のために きみを 造られたのか。

答 わたしが、あの方を知り、仕えるべきであるため。

そうして**その福みによって**、幸いな者となるためです。

3 きみの幸いの基は、どこにあるのか。

答 . . .

幸いに必要不可欠にともなう、

根本たる**神の三徳**に。

4 根本たる三徳とは、いずれのものか。

答 **信、望、そして愛**です。

5 きみは、どの句をもって、これを証拠づけるか。

答 **使徒は第一コリント書 13 章に書いています。**

「それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つはいつまでも残る。」

【ボヘミア兄弟団信仰問答 1502/1522】

1 . . .

きみは、何なのか。

答 . . .

分別ある神の**一被造物であり、死すべきもの**です。

2 神はなぜ きみを 造られたのか。

答 わたしが、あの方を知り、愛をいたすべきであるため。

そうして**神の愛をいたさつ**、幸いな者となるためです。

3 きみの幸いの基は、どこにあるのか。

答 . . .

根本たる**神の三徳**に。

4 根本たる三徳とは、いずれのものか。

答 **信、愛、希望**です。

5 [聖句をもって]証拠づけるか。

答 **聖パウロ**は言います。

「それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つはいつまでも残る。**その中で最も大いなるものは、愛である。**」

【ゲラクト・ガリン信仰問答 1527】

【教師分や司牧者が問う】

1 きみは、何なのか。

わがものは、 答える： . . .

分別ある神の**一被造物であり、死すべきもの**です。

2 神はなぜ きみを 造られたのか。

答 わたしが、あの方を知り、愛をいたすべきであるため。

そうして、幸いな者となるためです。

3 きみの幸いの基は、どこにあるのか。

答 **主イエスに。神の御子であられるこの方の土台の上に、**

みことばをとおして、わたしたちは建てあげられました。

根本たる三徳に、生きる者となるように。

4 根本たる三徳とは、いずれのものか。

答 **信※、愛、そして希望**です。(※ 確信と信頼を伴う信仰の信実)。

5 [聖句をもって]証拠づけるか。

答 **聖パウロ**は言います。

「イエス・キリストという聖に据えられている土台を無視して、

だれもほかの土台を据えることはできません。]

(コリントの信徒への手紙—3 : 11) . . .

一方で徳について、(25) 言います。

「それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つはいつまでも残る。」

その中で**最も大いなるものは、愛である。**」(同 13 : 13) . . .

日々の祈り～聖霊の導きを求めて

教会による「日々の祈り」。今回は玉山美保子長老が「日々の祈り～聖霊の導きを求めて」と題して整えてくださいました。合わせて日ごとに「**主の祈り**」を祈りましょう。希望をもって御名をほめ讃え、祈りに祈りを重ねましょう。

教会の頭なる主イエス・キリストの父なる御神さま

聖霊の息吹によって教会が立てられ、わたしたちにキリストを証し、十字架と復活の恵みに与らせ、キリストのいのちに生かされて生きる者としてくださいました。わたしたちが神の民のひとりに加えられ、あなたのみ言葉に聴き、あなたに祈ることができるのも聖霊のみわざであることを覚えて深く感謝いたします。

「希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちに注がれているからです。」（ロ-マ5・5）とあるようにわたしたちは神のたしかなみ手の中に置かれていることを確信いたします。

世界中に蔓延する新型コロナウイルスの感染力の示す数値に驚きと不安と恐怖を抱きつつ、弱いわたしたちはひとつとこで静かに座っていることができないでいます。

パウロは「**わたしは弱いときにこそ強い**」とコリントの教会に書き送っています。

「すると主は、『わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ』と言われました。だからキリストの力がわたしの内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。それゆえ、わたしは弱さ、侮辱、窮乏、迫害、そして行き詰りの状態にあっても、キリストのために満足しています。なぜなら、わたしは弱いときにこそ強いからです。」（コリントⅡ 12・9～10）

神は土の器であるわたしたちの中にこの計り知れない力といのちと聖霊を注いで、わたしたちを立ち上がらせ、生かしてくださいます。わたしたちは危険と困難と艱難の中にあっても、わたしたちが耐えられないような試練にあわせられないばかりか試練と共に、耐えられるように逃れる道を備えてくださっておられる主の憐れみに感謝いたします。

どうか主よ。どんな時にもなにものをも恐れなくて、大胆にキリスト者として歩み続け「わたしたちは、主にしているのちの与え主なる聖霊を信じます」と告白し、ひたすら聖霊の導きを祈り求めて主に仕えることができるようにこの群れを導いて下さい。

感染と隣り合わせで医療にあたっている病院関係者の方々と、そのご家族の健康をお守りください。病床にある姉妹、リハビリに励んでいる姉妹、愛する者を失い悲しみの中にある兄弟姉妹をかえりみてください。

どうか主よ。子どもたちを守り、あなたの祝福と導きのうちに成長させてください。

言い尽くしません感謝と願いを 主イエス・キリストの御名を通してお祈りいたします。

アーメン